



森のなかま

2009年5月号

NO. 13 (継続158)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

「みどりの愛護」のつどいで 緑化功労団体が表彰

わが国は、四季折々の緑豊かな自然に恵まれた国であり、人々は、古くから自然を愛し敬し、長い歴史のなかで数々の優れた文化を育んできました。この貴重な緑を守り育て親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むことを願って、平成2年から全国「みどりの愛護」のつどいが開催されてます。(横浜市ホームページより)

平成21年4月19日(日) 横浜動物の森公園で開催された「第20回全国みどりの愛護」のつどいにおいて、私ども、かながわ森林インストラクターの関係する2団体が、表彰の栄に浴することが出来ました。式典には、皇太子さまと皇太子妃雅子さまもご出席されました。

かながわ森林インストラクターが関係するNGO・NPOは、細胞分裂のように、かなり数多くなってきました。その一つひとつが、地域に深く根を張り、地道な活動を積み重ねてきています。受賞された団体の皆さまにとって、今回の慶事は、今後の大きな励みになることでしょう。そして、近い将来、森林インストラクター・その活動団体が核となり、より大きな協働のウェーブを起こしていけたなら、素晴らしいことと考えます。

以下、お喜びの言葉などを、ご紹介いたします。



全国「みどりの愛護」のつどいに際しての

県知事表彰について

いせはら森の会

会長 仲野 三男

このたび、第20回全国「みどりの愛護」のつどいが、神奈川県において開催されるにあたり、神奈川県においては23団体の緑化功労団体の表彰が行われました。

わが、いせはら森の会もその一員に加えられ県知事賞を戴くことになりましたが、このことは大変光栄なことでもあり、我が会を受賞団体としてご推薦くださった伊勢原市長様には心から感謝申し上げますと共に今後における活動にも注視の眼を注いでいただければと願っているところです。

いせはら森の会がボランティア団体として正式に発足したのは平成15年のことでした。その以前には「伊勢原市みどりのまち振興財団」により平成11年、荒廃した里山の再生を目標とした「親と子による里山体験教室」が設けられ、それ以降、私が講師を担当した経緯もあって平成15年ボランティアによる里山林再生整備事業を開始するにあたっての代表をおおせつかり今日に及んでいるところです。

森の会の主要事業は、伊勢原市総合運動公園を主要拠点とした、里山再生のための萌芽更新による生長度の高い森林づくりを目指しての事業と併せ地域の水源林の育成事業としての除伐、間伐も含めての整備事業を行うものでこれらの事業は更に地域の方々の理解、協力による活動に発展することにも期待をこめ、幼稚園から、小中学生とそれらの父兄による体験学習をも含めた活動を継続実施しているところです。有難いのは参加者一同は活動に臨み常に爽やかな奉仕を惜しまないことに尽きるということでしょうか。ボランティアの参加者は当初55名からのスタートでしたが最近では35名から40名の間を往復している状況で今回の受賞を契機としてボランティア活動への関心の高まりがあればと期待を抱いているところです。

県知事表彰について

NPO法人 四季の森里山研究会
理事長 武本 弘次

このたび、第20回全国みどりの愛護のつどいが開催され、四季の森里山研究会が、神奈川県都市緑化功労者として県知事表彰を受賞いたしました。因みに県内23の団体が表彰されました。大変、光栄なことであり心から感謝するとともに、長年の地道な活動が公に評価された証であり、今後は自信をもって活動を継続してまいります。

わが会は、平成14年に県立四季の森公園の里山環境の調査と保全活動を目的に発足し、以後、年を重ねるごとに、活動を拡大・充実してまいりました。現在、里山保全活動のほか、公園来園者を対象とした自然観察会、近隣小学校の環境授業、地域のボランティアグループ等との協働事業活動等を展開しています。

わが会の今後の課題は個々の活動が地域で定着し、喜ばれているものの、NPO法人として、事業として成立させるには、まだ程遠い段階です。今回の表彰を期に会員一同、一層のレベルアップを図り、活動内容の充実と拡大に努めていく所存です。

現在会員の約半数は5期から10期に亘るかながわ森林インストラクターがメンバーです。かながわ森林インストラクターの会と協働でイベントの開催も検討させていただくことも課題になっております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



私の認識

野鳥その66

高橋 恒通

我が国で見聞き出来る野鳥の中で、同じ呼び名だが2種類の野鳥が居ります。

ビギナーバーダーは勿論ですが可成り野鳥に親しんだ方でも「チョイト紛らわしいネ」と思いますので認識を改める為のご案内を致しましょう。本稿では“ミヤコドリ”と呼ばれる2種類を挙げてみます。

まずは冬鳥、チドリ目ミヤコドリ科のミヤコドリ（漢和名：都鳥、英名：Eurasian Oystercatcher、体長L = 45cm、同色）です。世界地図上ではユーラシア大陸の中～北緯度の地域で繁殖行動をし越冬期はやや南へ移動します。

体色は頭部、頸部、背面が黒または黒褐色で、胸前から下面全体が白色のツートンカラーに加えて、最大のポイントは赤朱色で太目かつ長めの嘴です。夏羽の個体は嘴が全部赤朱色で脚も同色ですが冬羽のそれは嘴の先端が黒っぽくなり脚の色は肉色となります。



ミヤコドリ

英名の直訳が“ユーラシアの牡蠣(カキ)捕り”と称される如く、干潮時に岩牡蠣などの二枚貝を特異な嘴で開いて食べるそうです。その他カニやゴカイ等も採食との事。我国では大きな群では30羽前後で飛来して来ると言われていますが本州中西部から九州方面の干潟などでは大きな群れが見られるそうです。県下では三浦市の毘沙門海岸や相模川河口で確認された記録がありますが、残念乍ら私は未だに観察の機会に恵まれて居りません。

次のミヤコドリは冬鳥でチドリ目カモメ科のユリカモメ(漢和名：百合鷗、英名：Black-headed Gull、体長L = 40cm、同色)です。

同色ですが、夏羽の時に頭部は黒褐色のマスクを被った如くになり頸部、喉下、胸前から下部が白色、背面が灰色、尾は黒色、嘴が黒味がかかった赤、脚も燻んだ赤となるのが成鳥、冬羽の時の成鳥の体色は、頭部の耳の辺りに淡褐色丸形の羽がある他は白色でそれ以外は夏羽の時とほぼ同色です。



ユリカモメ

但し嘴は先端のみ黒色で他は全て赤色、そして脚も赤色です。幼鳥や若鳥は褐色の羽毛が混った白色の頭、そして嘴は先端が黒色で他は黄色っぽくなること認識してます。ユリカモメは冬期に沿岸、内湾、港、湖沼、河川で多く観れます。但し、冬羽の為に頭部に黒いマスクの夏羽の姿を見る機会は少ないと認識してます。

夜間は広い河川の中洲や湖沼の中央部、そして海上で群れて休息するそうです。

此のユリカモメこそが別称“ミヤコドリ”と言われる東京都の“都の鳥”なのです。

平安初期の歌人で“六歌仙”の一人、在原業平(アリワラノナリヒラ)が、冬期に京の都の加茂川辺りで見聞きしていたのがユリカモメだと思われます。

業平は有名な「東下(アズマクダ)りの旅」で隅田川の辺(ホトリ)に於てユリカモメを見て“名にしおは、いざ言問(コトト)わむ都鳥(ミヤコドリ)我が想う人のありやなしや”と一首詠んでいます。東京都は此の故事に因んでミヤコドリ、即ちユリカモメを都鳥(トチョウ)に選んだ訳です。その証拠に今でも隅田川に架かる“言問橋”や“言問通り”が現存してます。

余談ですが、美男で名高い業平は「古今集」に30首もの和歌が載せられている程の大歌人であるばかりで無く、第57代天皇である陽成天皇の蔵人頭(クランドガシラ)まで勤めた公務員でした。

さて話はガラリと変って、江戸末期に清水の次郎長の子分「森の石松」を騙し討ちにしたのが「都鳥の吉兵衛」と呼ばれる悪(ワル)でした。

私の想像ですが、吉兵衛に付けられた“都鳥”は冬期に遠州灘で観察できるミヤコドリ科のミヤコドリであって、ユリカモメのミヤコドリの方では無い・・・と密かに信じてます。

< 参考資料 >

・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説 / 叶内拓哉、分布図・解説協力 / 安部直哉、解説(鳴声) / 上田秀雄、山と溪谷社。

・かながわの鳥図鑑、編集 / 日本野鳥の会神奈川支部、発行 / 第46回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」神奈川県実行委員会。

写真：yahoo 百貨事典より

松田町だより

5月号より新メニューとして「松田町だより」がスタートします。松田町役場企画財政課・小田様のご好意により実現しました。年4回ほどの掲載を計画しています。 < 広報部 >

芋焼酎で町おこし

町農業委員である寄在住の石井輝雄さんは、荒廃した農地を何とか蘇らせようと芋焼酎の原料となるサツマイモの栽培を考案しました。

たまたま平成21年4月1日は松田町が町制を施行して100年目にあたり、町にも協力をお願いしたいと賛同者を集め、『芋焼酎（百年紀）をつくる会』（石井輝雄会長）を発足させました。町からも助成金を受け、農作業をしながら自分でつくったサツマイモで焼酎をつくる喜びを味わっていただきたいと、会員を募集しています。

会・発足までの流れ

- 20年6月 日 県農業技術センターから種芋になるコガネセンガンを10kg譲り受け植え付けを行った。
- 9月 1日 九州・中国地方の醸造会社7社から芋焼酎を取り寄せ、飲み比べを行い醸造会社を決定した。（鹿児島県霧島横川酒造）
- 11月 3日 発起人が会を開催し、規約、収支予算（20年度、21年度）の決定
- 11月 5日 寄の畑で種芋となるサツマイモの収穫を行った。約20kgの収穫
横穴を掘り、籾殻で保管（来年4月ごろまで）
- 11月 7日 寄自然休養村管理センターで寄地区振興会、自然休養村運営協議会役員への説明会を開催
- 12月 8日 農地への進入路拡幅作業 L = 50m



写真提供：松田町役場企画財政課

芋焼酎（百年紀）をつくる会に参加してみませんか！

芋焼酎（百年紀）をつくる会

会長 石井輝雄

本会は、寄地区の荒廃農地の解消、獣害対策の一環として荒廃農地の開墾からサツマイモの植え付け、収穫を行い芋焼酎の原料をつくって九州の醸造会社で焼酎にしてもらうことを目的にできた団体です。

この会の運営については、会の主旨に賛同される方々の会費によって運営し、出来上がった焼酎は、非売品として会費に応じて均等に分配する予定です。

1口会費あたり12本から13本が目安となります。

また、松田町が平成21年4月1日に町制施行100周年ということで、その記念事業としての認定を受けております。

農作業に参加しながら、マイ焼酎づくりをしてみませんか！

以下、賛同される方の会費と主な年間スケジュールをお示しします。

1. 『会費』

個人会費 1口 20,000円

法人及びその他団体会費 1口 50,000円

『年間スケジュール』

会員の方々に従事していただく仕事（参加できる方だけで構いません）

4月中旬 獣害対策用防護柵の設置、サツマイモ（^{こがねせんがん}黄金千貫）の植え付け

6月～8月除草作業2回（草むしり、草刈りなど）

9月中旬 サツマイモの収穫、醸造会社への配送準備

12月～翌年1月 出来上がった焼酎の配分作業

2. 『賛助会員』

会費は、平成21年12月～平成22年1月ごろ出来上がる焼酎を配分するまでの期間を1サイクルとした会費であります。よって、平成21年度にさらに会費が必要なわけではありません。なお、この活動が軌道に乗れば、次の年にも同じようなスケジュールで会員を募り事業継続を考えています。その際は、別に会費が必要になりますが、金額は低く抑えられると思います。

3. 『申込先・問い合わせ』

申込先：松田町役場企画財政課 松田町松田惣領2037

申込用紙に記入し、現金を添えてお申し込みください。

町ホームページから申込書が印刷できます。

問い合わせ：町役場企画財政課 0465-83-1222

活動短信

3/7 ~ 4/26

(株)鈴廣かまぼ【鈴和会】間伐体験

日 3月25日(水) 9時半~12時
 場 やどりき水源林
 参 大人 9名(男性5名、女性4名)
 県 小司
 イ L金森、斉藤、

午後から雨の予報であったが、集合と同時に降り出し、協議して自然観察会に切り替えた。Bコースを約2時間かけて案内し、集合写真を撮って解散。参加者は集合棟で昼食。従業員(20~30代)の方々に水曜の休日を利用して参加されたとのこと、やどりきが初めて、森を歩くのも久しぶりとあって、興味をひくものばかりだったようだ。

(記 10期 金森)

里山ボランティア育成講座第五回

日 3月28日(土)
 場 黒川野外活動センター
 参 一般市民 30名
 スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか 15名
 イ L松崎、渡部、井口、久保、清水、野田、

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズの第五回目。

今回は最終回と言う事で、川崎市の緑政課や公園協会の役員等が大勢出席した。また、ラジオ局川崎FMの取材も入ったりしていつもよりスタッフサイドが賑やかだった。

講座内容はいつもの通り、午前中が作業、午後が講義と言うことで、午前は竹林整備と、コナラ・クヌギの植樹。同時に班を分けてこんにやく作りも行った。こんにやくは、土つきのコンニャクイモを炭酸水素ナトリウムで煮るところから行った。出来たこんにやくはお昼のトン汁に使った。なかなか美味しかった。午後は東京農大の濱野教授が里山について講義し、一般参加者全員に終了証が手渡され、3時30分に解散となった。

なお、川崎市公園緑地協会では平成21年度も引き続き「里山ボランティア育成講座」を実施する予定とのこと。(記 5期 松崎)

森林文化体験「草木染・草餅作り教室」報告

日 4月12日(日)晴れ 10時~16時
 場 秦野市 表丹沢野外活動センター
 参 22名
 井出、米本、落合、長谷山、堀江、愛木、白畑、武者、松村(俊)、三浦、斉藤(彰)、飯澤、内野、小澤、高橋ご夫妻、水口、小笠原、
 松田町寄地区より、大館様、豊田様、田所様、
 斉藤様



【活動内容】

「森林文化部会」では、部会員の知識や技術の向上目的に研修会・講演会を企画しています。今回は、秦野市表丹沢野外活動センターにて「草木染草餅作り教室」を開催しました。当日は、天候に恵まれ、満開のサクラの下での研修でした。

「草木染」は、染める対象物の重量によって、植物・薬剤・お湯の量が決まります。量りや計量カップ、温度計、時計を使いながらの作業が中心ということもあり、「自然活動体験」というより「化学実験」のような印象を受けた参加者もいたようです。

今回は、ヒノキ、ウメ、サクラ、シダレザクラ、ヨモギを用いての染色で、それぞれ植物の「個性」が出たものになりましたが、その中でもヒノキやヨモギの葉は、深みがある色に染まり、驚きの声が上がりました。

また、午後から「絞り」を加えながらのハンカチ染めにもチャレンジし、出来た作品をお互いに見せ合う光景があちらこちらで見られました。

「草餅作り」では、だんご粉を十分蒸すことと茹でたヨモギを良く水を切った上で、すり鉢で細かく擂ることがポイントです。「これでいい?」と何度も講師に確認をしながらの作業でしたが、良い出来栄で、お抹茶を頂きながら、あつと言う間になくなりました。

今回、松田町寄地区より4名が参加され、全員「来て良かった!」「今度は地元でやってみよう」との感想が聞かれました。このような「文化交流」を通じて地域とのつながりがさらに強まればと思います。

(記 8期 斉藤(彰))

間伐・自然観察・丸太切り体験

日 4月1日(水)9時半~12時
 場 やどりき水源林・パートナー林
 参 横浜トヨペット労働組合とその家族
 32名(大人20名・子供12名)
 県 森林課 小司、久富
 イ L斉藤(武)、渡部、飯澤、酒井、朝、出がけの小雨も現地では曇り空ではあるが前日の雨で木も濡れており、足元も滑るのでプログラム

を変更し間伐グループと自然観察、丸太切りグループに分けた。間伐グループは男性のみ13名を2班に分け現場に入ると緩斜地でも足元が悪く各班1本づつ間伐をした。自然観察はファミリーグループ(大人7 子供12)を2班に分け、Bコースを案内した。子供は4~5才で親子で手をつないでの観察はいかにもファミリー的であった。

集会棟に戻りヒノキの丸太切りも親子で楽しくノコギリを使いコースターに仕上げてみやげに持ち帰ってもらった。間伐体験と自然観察を通して神奈川の森林の様子を知って頂くと同時に社会貢献活動が出来たと思う。雨にも降られず無事終了することが出来ました。(記 6期 斉藤(武))

自然観察会 ~冬と春の野鳥に出会うたび~

日 3月7日(土) 晴れ 10時~15時
場 県立21世紀の森
参 29名
イ 高橋、武本、

当日予報に反し天気が回復してくれたが、午前中は鳥の姿は勿論、声さえ聞こえない。遠くでヒヨドリやカラスの音がするばかり。仕方なく植物中心の観察会。展望台でお弁当を広げているとオオタカが頭上を旋回。午後、帰路ではジョウビタキ・ウソが出現し、森林館に着くころシメ・イカルが群れて姿をみせてくれた。最後の最後に形になった探鳥会でした。(記 7期 武本)

宮ヶ瀬湖畔園地でのアジサイの植栽

日 4月11日(土) 晴れ 11時~13時
場 宮ヶ瀬湖畔園地
参 365名(子供49名・スタッフ20名)
イ L浦野、高崎、小野、塩谷、

宮ヶ瀬ダム周辺振興財団の企画で実行は鉄鋼総合商社の株メタルワン。参加者は社長を含む同社および関連会社社員と家族である。宮ヶ瀬での活動は6年目。財団からは理事長、担当者および作業指導員13名が参加、植付け水の準備その他しっかりなされていた。参加者大半の都心からのバス移動が渋滞で予定より1時間半遅れの開会。同社スタッフが植栽手順など説明したあと1,200本のアジサイを広場への降り口階段両側に植える。ちなみに苗木の費用はメタルワン負担とのこと。石混じりの急斜面での作業は足元が危ないがそれでも1時間強で完了した。我々インストラクターは分担区域で実地の指導を行なうも対象人数が多くて十分に行なえなかったが怪我も無く終了したことが何よりでした。参加者はこの後のバーベキューも楽しみみのようです。

(記 8期 浦野)

自然観察会 ~春の花と山菜を楽しむ~

日 4月25日(土) 雨 10時~14時
場 県立21世紀の森・研修室・金太郎コース他
参 22名(子供2名・大人20名)
AGSスタッフ 布施、渡辺、太田、野田、
サポートクラブ 日比野、高田、内田、
イ L村井、島岡、
写真提供 布施(あっきー)さん。

本日は雨の中をありがとうございました。大変お疲れさまでした。おかげさまで、今回も参加者の方々には大好評で満足していただけたものと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。主催した(株)足柄グリーンサービスの布施晶子(あっきー)さんからのメッセージです。

雨中の観察会



山菜天麩羅そばと試食会風景



~山菜・野草づくしの集い~9期会活動

(楽しく摘んで、みんなで料理し、みんなで学ぶ)

日 4月26日(日) 晴れ 9時~17時
場 丹沢・大倉 どんぐり山荘
参 9期会家族も含み 17名
 小澤、女川、鈴木、諏訪部、高橋、辻村、水口、水津、飯澤夫妻、波多野夫妻、樋口夫妻と愛ちゃん(2歳) 村井夫妻、
 (敬称略)

9期では、安心してインストラクター活動に専念できるのも、家族の応援があるからとの考えから、年に1回(昨年から)親睦会も兼ねて「山菜・野草づくしの集い」をスタートしました。今年は小澤さんの「スープ・ドゥ・ラデッシュ」や飯澤さんの「ミズのクルミ和え」「ウコギご飯」私の「山菜入りがんもどき」妻の「ヨモギ入り白玉ぜんざい」も大好評。(自分で言うのもなんですか・・・)23種の山菜、野草で和え物、お浸し、サラダ、天麩羅、どんぐりさんにお願ひしたもりそばに添えて楽しく、美味しく、頂きました。鈴木朗さん特製の“どぶろく”も親睦会に一段と花を添えたことは言うまでもありません。(記 9期 村井)

やどりき水源林
ミニガイド



ヤブサメ

4月のトピックス

鳥のさえずりで、やどりき水源林は賑やかです。早春から溪流沿いで鳴いているミンサザイ。梢で鳴いているのはオオルリ。人工林から聞こえてくるのはヤブサメのさえずりです。

5月の水源林

いろいろなウツギの花がじゅんぐり咲いて楽しめます。トップバッターはヒメウツギやオオツクバネウツギです。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度（冬季休止）

集合：水源林入口ゲート前

内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

問合せ：(財)かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp

● やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

生命の星・地球博物館主催の講座

初夏の昆虫を探してみよう。

(野外観察)小4年生～大人25人
場所：名古屋(ながぬき)秦野
もっとも昆虫の多い初夏の里山を歩き、栗の花や枯木にいる昆虫や水生昆虫等色々な虫をさがしましょう。5/30(土)9時～15時・メ切り
5/12・〒250-0031 小田原市入生田499・開催日・住所・氏名(連名可)年令・電話番号を明記の上、往復はがき又はホームページから申し込みください。



森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 手書き原稿送り先 >

森 義徳

〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコ
ー・森宛 045-590-1910>Mail:
myforest@yha.att.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: morimoto@bikkuri.co.jp
原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

所有する千葉の山に隣接して風力発電の巨大な風車が計画されています。環境への影響など、賛否があるなか、勉強になるので同意しました情報のある方はご連絡ください。

(金森)

陽春、快晴湿度少なし。標高500米。クヌギこならの日当たり。M11.30、握りの梅干し口でころがしていると、蝶が集団で私の周りを舞う。何とギフ蝶だった。夢心地だった。こんな事あっていいものか。青色のザックに止まり飛び立つ。この美しい自然の恵みに、夢つつ春風そよぐ。二度とない光景に。(鈴木)

桜の開花とともに、朗報が届きました。懸案の連絡事務所問題に一条の光明です。ご尽力をいただいた、関係者の皆さまに多謝。詳しくは、総会で。(森本)

今年の桜は結構長く楽しめたようです。4月に行われた森林文化部会の草木染も、満開の桜の下楽しく実施されました。風に舞う花吹雪が見事でした。(井出)

神奈川新聞の記事から松田町町制施行100周年を知り、「芋焼酎」の掲載許可を頂こうと電話したことで、「松田町だより」が生まれました。松田町と私達はますます、切っても切れない仲に発展していきますね。(村井)

お詫びと訂正

本誌4月号「本の紹介」「究極の森林」10行～12行 ここで～の中は削除。削除した部分は24行特徴をまとめの後にしてください。

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。

振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信

広報部：井出恒夫、鈴木松弘、

村井正孝、金森 巖

森 義徳

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。



〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海軍ビル

Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com

<http://www.alpine-tour.com>

